

◆ ベストマッチ® イチゴ用057 20-5-7

イチゴに好適な肥効が持続するよう3種類の被覆肥料を配合しました。りん酸や加里が蓄積した土壤に適するよう、窒素成分を高く、りん酸および加里成分を控えめにしています。

N	窒素(被覆)	4.0 Kg
P	りん酸(被覆)	1.0 Kg
K	加里(被覆)	1.4 Kg

(1袋20kgあたり)

特長

1. **りん酸・加里が蓄積した土壤で栽培するイチゴ用に設計した肥料です。**

9月定植で翌年5月まで栽培するイチゴのために、低温期に効く被覆硝安石灰、早春から初夏まで効く被覆尿素を配合しています。また、りん酸、加里は多くの畑土壤で過剰傾向ですので、これらは少な目に、かつ、利用効率の高い被覆化成肥料として配合しています。

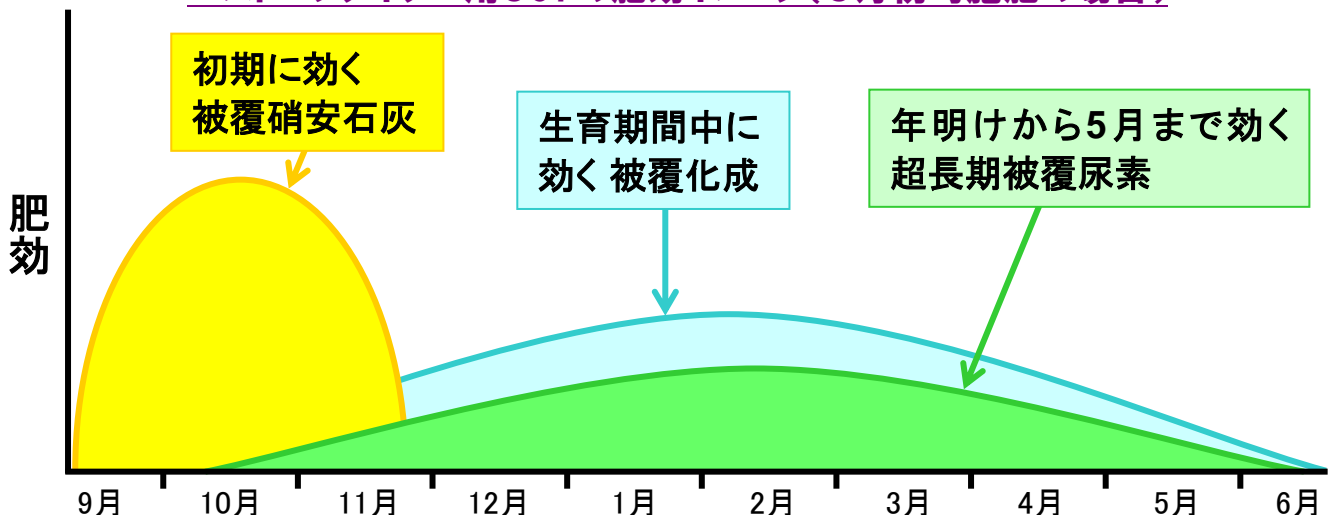
2. **イチゴに好適な肥効が収穫期まで持続します。**

窒素肥料がゆっくり溶出する被覆尿素、被覆硝安石灰、被覆化成を配合しています。高成分ですがじっくりと効くため肥料焼け、肥料切れを起こしません。また、栽培期間を通じてりん酸、加里もじっくりと供給され、充実したイチゴを安定して収穫出来ます。

3. **元肥は配合されていません。**

ベストマッチイチゴ用057には速効性肥料を配合していません。りん酸、加里過剰の土壤では、多くの場合、前作の窒素も残存しています。また、土壤消毒を行なうと有機物が分解されて初期肥効が高まります。残存窒素量は畑によって異なるため、元肥は圃場条件に合わせて、慣行通り別途施用してください。

ベストマッチイチゴ用057の肥効イメージ(9月初旬施肥の場合)



施用量・施用方法

施用量は全面全層施用で100～120kg/10a(窒素成分量で20～24kg/10a)が標準です。慣行の施肥窒素総量に合わせ、地力により加減してください。ほかし肥料や化成肥料等の速効性元肥、及び、堆肥・石灰・りん酸資材等の土壤改良資材は従来通り施用してください。